

三六 寛文元年八月 中山道碓氷関所の女手形記載規定〔C〕

関所女手形可ニ書載之覚

仮令ハ 女上下何人之内

一乗物 何挺

一禪尼 是ハ、よき人の後室、又姉妹などの髪剃たるを云

一尼 是ハ、普通之女髪剃たるを云

一比丘尼 是ハ、伊勢上人・善光寺上人などの弟子、又ハ、よき人の後室などの召仕あり、其外熊野比丘尼等なり

一髪切 是ハ、髪の長短によらす、少切候共、又ハ短く切候共

いつれも髪切なり

一小女 是ハ、当歳より十五歳まで、振袖之内ハ小女たるへきなり

一乱心之女

一搦之囚人 但、是ハ男女共ニ

一死骸 但、是ハ紛無レ之死骸ハ、不及レ改可通レ之、不レ髓  
死骸ハ可レ改レ之

右之通手形に可レ書ニ載之、此外者於ニ関所ニ不可レシ及レ改レ之、但  
欠落等之者有レ之節者、從ニ此方ニ其者之年比・様跡書ニ注之可  
遣候間、」隨ニ其趣ニ可レ改レ之、次ニ当月之日付ニテ、来月晦日」ま  
てハ可レ通レ之、それより日限及ニ延引者、不可ニ相レ通レ者也

隼人正<sup>〔伊沢正信〕</sup>

寛文元年八月朔日

長門守<sup>〔瀧川利宣〕</sup>

右近太夫<sup>〔本多忠相〕</sup>  
美作守

碓氷関所

人改衆中